

資料

● NIHON AGRI, INC.

会社概要

基本情報

設立日	2016年11月
資本金	1億円
売上	36億円（23/3期）
出資企業	オイシックス 農林中央金庫 REVIC アグリビジネス投資育成 センコーグループHD、等
従業員数	80名
支店	青森県弘前市 香川県三豊市 静岡県牧之原市 群馬県高崎市 タイバンコク

生産事業

日本で最大のりんご農園を経営。りんごの選果場運営にも携わる。今後も他品目での大規模経営に取り組んでいく。また、海外においては日本品種・日本技術を用いた農業生産を行う



販売事業

生産者等からフルーツを仕入れ、アジア各国に販売を行う日本最大級の国産青果物輸出商社。青森県産りんごについては自社の選果場を運営。

22年度は約3,000tのりんごを輸出

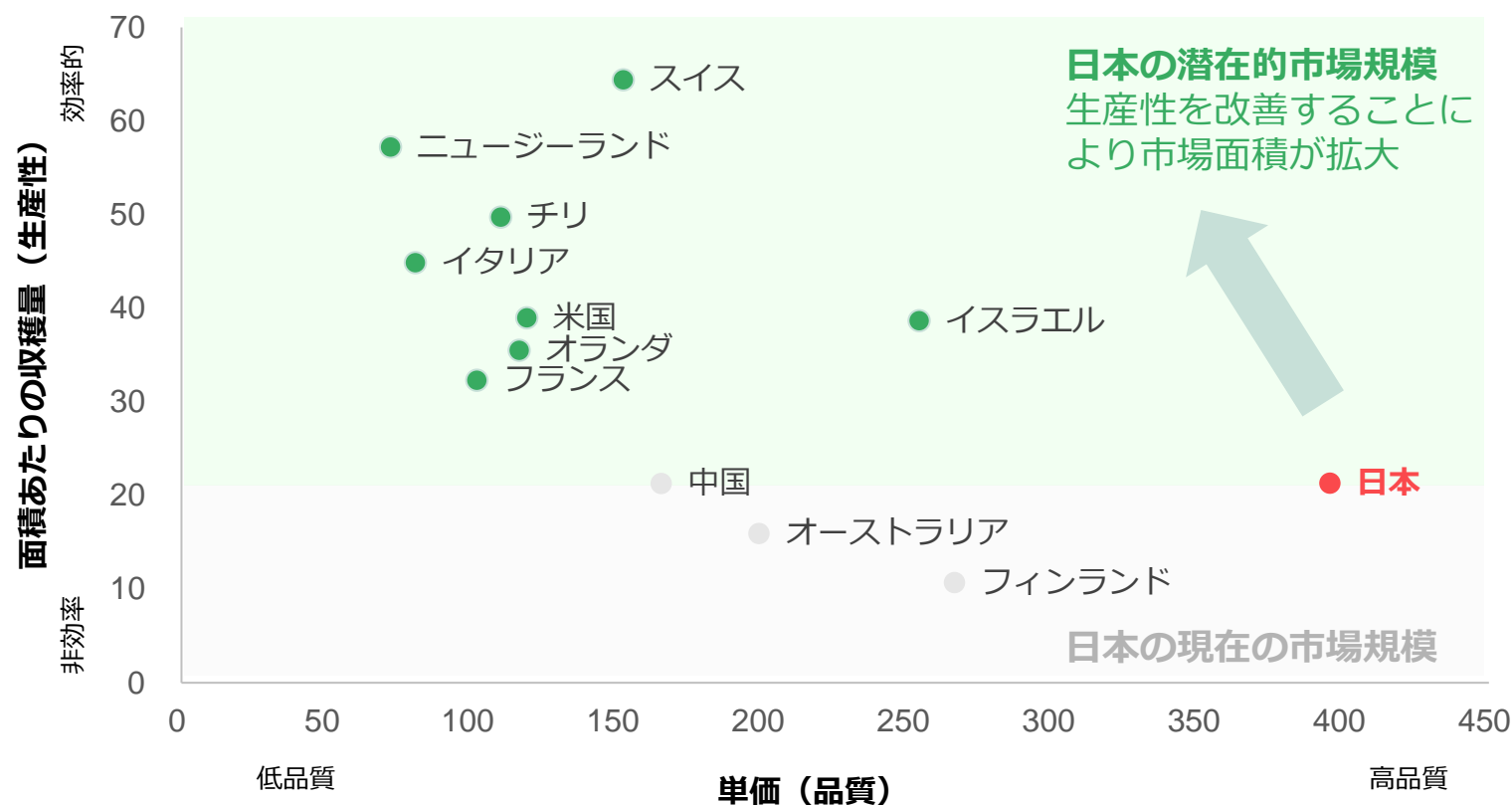
タイ	台湾	香港
		
シンガポール	ベトナム	フィリピン
		
インドネシア	マレーシア	
		

* その他、ぶどう・桃・さつまいも・梨等の取り扱いもあり

日本の農業は競争力のある品質を持つ。他方、生産性においては他国に劣後

農業主要諸国における生産性および品質の比較

りんごの場合、生産性（ton/ha）、品質（JPY/kg）



- 品質の指標となる単価を比較すると日本は抜きん出た競争力を持つ
- しかしながら、生産性においては多くの国に劣後（ニュージーランドの1/3）
- 結果、アクセス可能な市場規模が頭打ちで、産業としてのパイも限定的になっている状況
- 市場面積を拡大していくためには生産性の課題を解決することが必要

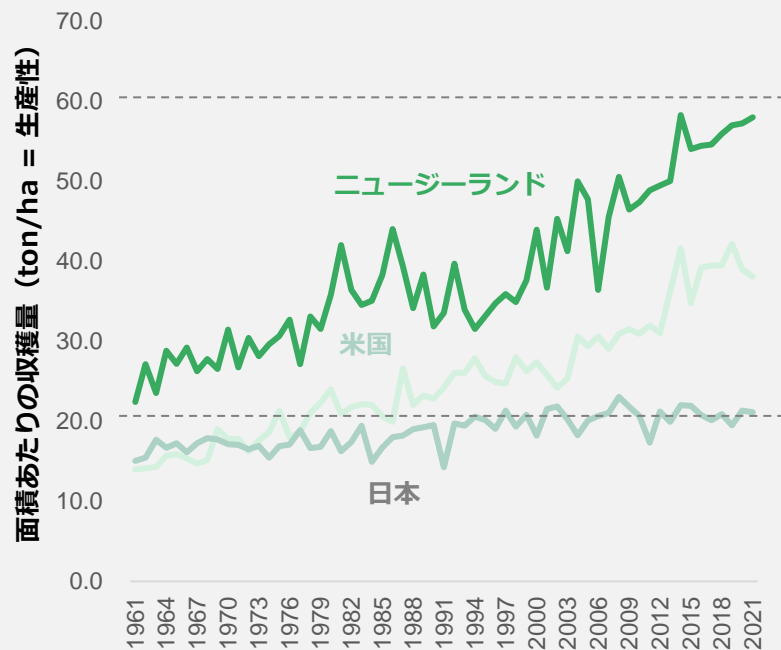
出典：FAOSTAT

注釈：1ドル140円で算出。2020年のデータを基に算出（なおニュージーランドは2019年の数値を使用）

生産性を伸ばした国は輸出も増大させている

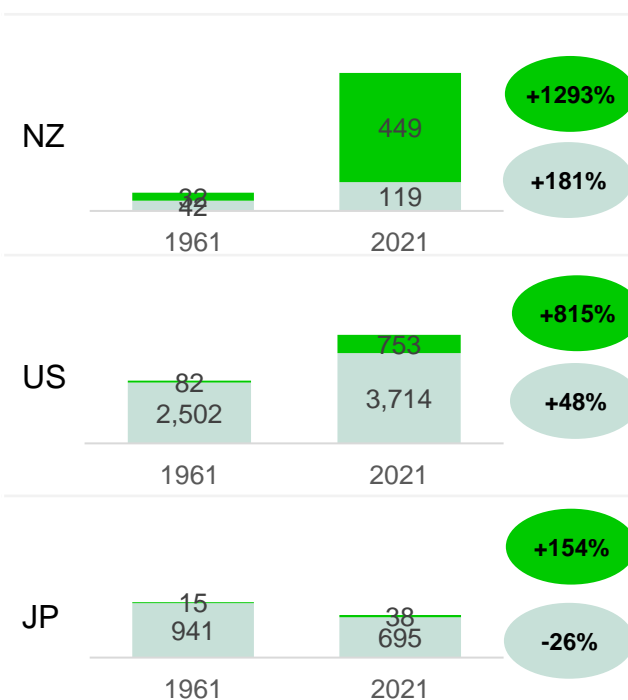
米国およびニュージーランドにおける輸出状況の変遷 (りんごの例)

りんごの生産性の推移
1961年～2021年



(千トン)

■ 自国消費量 ■ 輸出数量



- 1961～2021年の米国およびNZにおける生産量に対する輸出量をみるとシェアが顕著に拡大
(米国+14%、NZ+36%)
- 同期間におけるりんごの生産性(反収)は両国共に継続的に向上
 - おもに流通最適化(選果場のロールアップや垂直統合)で合理化
- 結果として、価格競争力のもつりんごをグローバルシェアが拡大
- 一方で日本は生産性が停滞しており(価格競争力が弱い)、結果として輸出量の上振れも限定的(+3%のみ)
- 裏を返せば、米国やNZのように生産性を改善することで、グローバルシェアが飛躍する可能性があることを示唆

当社の基本戦略は、①大型での資金調達→②優秀な人材の農業界への呼び込み→③バリューチェーン垂直統合での効率化 である。

エクイティでの資金調達

事業への投資フェーズにおける人材の確保

McKinsey & Company NOMURA 環境省
Ministry of the Environment

住友商事 Goodfind You'll find good to great. 三井物産

MIZUHO 東京海上日動 ユニバース

Takashimaya pwc citi

HSBC free 星野リゾート

● NIHON AGRI, INC.

生産

現在：丸葉の世界



反収
2トン

生産効率化

未来：高密植の世界



反収
6トン

選果・梱包

現在：自動選果



大規模 & Dx化

未来：次世代技術



販売

現在：市場流通中心





マーケティング
販路・市場拡大

未来：輸出と小売直販

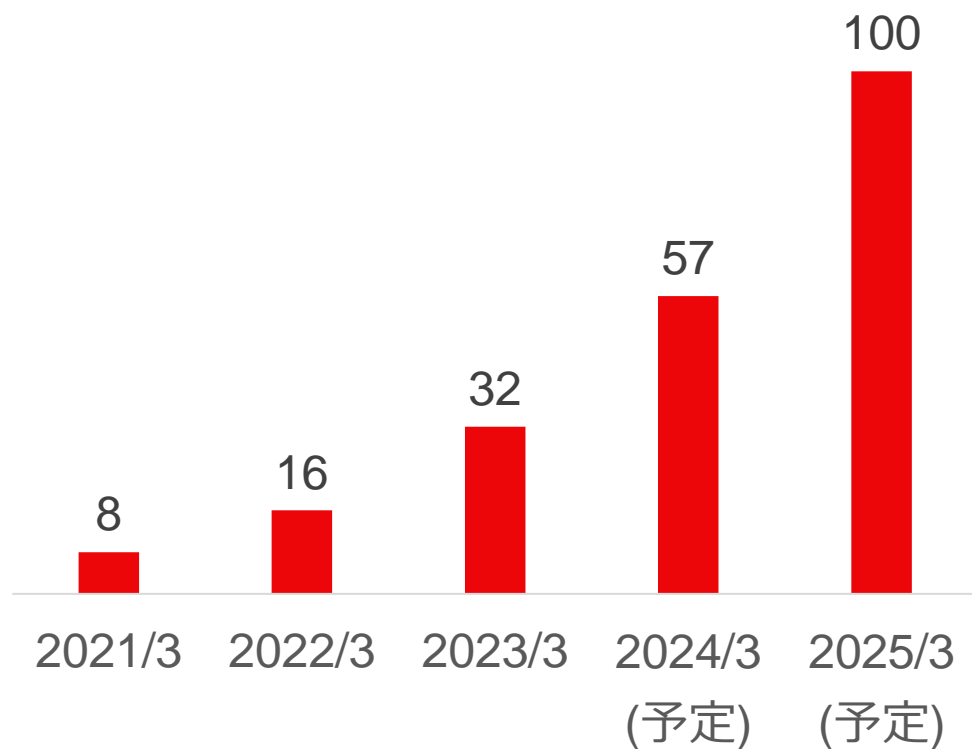


高密植栽培で生産原価を半減させる

	高密植栽培		丸葉栽培
			
収量	60 t/ha	3倍	20 t/ha
製造原価	74 円/kg	半額	158 円/kg
投資回収	5～6年	半分	10年
特徴	<ul style="list-style-type: none">・ 機械が通路に入れる為、効率性が高い・ 育て方の特別な技術が必要無い（マニュアル化可能）・ 初期投資が高い（2,200万円/ha）・ 太陽のあたりが均等（2Dのため）		<ul style="list-style-type: none">・ 機械が入れずはしご等を掛ける必要があり効率性に欠ける・ 職人的な剪定技術が必要・ 太陽のあたりが不均等（3Dのため）

日本最大規模で高密植栽培を拡大中

弊社りんご農場 広さ推移
(ha)



規模拡大ができる理由

- 初期投資を負担できる資金調達力
- 海外における技術情報の取得と研究
- RedApple赤石氏との研究による、先進的な栽培知見の注入
- 高密植栽培に対する先入観が無い
(丸葉栽培にこだわる理由が無い)



画像認識の最新選果機で処理量約三倍

海外の最新選果機



処理量

8粒/秒

人員

90箱原箱/人

※ニュージーランドの選果業者は現在の弊社の水準の1/3の人手

自動化

水流充填＋カメラ外観検査

日本で通常導入されている選果機



3粒/秒

50箱原箱/人

人手充填＋目視外観検査

当社が日本で初めて
大規模選果機を導入する

可能な理由

- ・ 大規模選果機に適する取扱量
- ・ 資金調達を行える選果実績
- ・ 海外販売店とのつながりがある

輸出と国内販売を組み合わせることでサプライチェーンは強くなる

輸出販路に求められるもの

サイズ

日常消費用 = 1玉あたり200g前半の小玉サイズ
ギフト用 = 1玉あたり300g以上の大玉サイズ

グレード

- ・キズはNG（値段は他国産より圧倒的に日本産が高いため欠陥は好まれない）
- ・赤りんごの場合は真っ赤なもの

日本農業の 販路開拓の取組

対輸入卸への販売が中心だったのを、台湾・香港の小売店直のルート、及び国内のりんご輸出シェアが大きいエクスポートのルートを開拓していく

国内販路に求められるもの

1玉あたり200g台後半の中玉サイズ

- ・多少のキズがあってもお値ごろ感が求められる
- ・大抵の色ムラは許容範囲内

国内小売店へのダイレクト販路を保有する、他品目も積極的に取り扱っており強化な関係性を既に持つ国内商社との協業を通じた売上増を見込む

→りんごの生育において大小様々のりんごが生育される（完全なるコントロールは不可能な）ことから、**国内販路・海外販路の両方を使い分けて売上を最大化する**ことが不可欠である。

今後の投資ポイント：静岡県のさつまいも産地形成への展開

今期活用耕作放棄地



10ha

2024年

24ha

今後の投資ポイント：香川県のキウイ産地形成への展開



今期活用耕作放棄地

1ha

2024年

4ha



今後の投資ポイント：群馬県のカイイ産地形成への展開



今期活用耕作放棄地

10ha

2024年

20ha



今後の投資ポイント：栃木県のシャインマスカット産地形成への展開



今期活用耕作放棄地

0.3
ha

2024年

5
ha

